



# 洋上アルプス

No.301

2020年4月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

## 令和元年度（春期）インターンシップの受け入れ

（3月2～6日）

屋久島森林生態系保全センターでは、東京農工大学4年の学生1名を農林水産省就業体験実習（インターンシップ）として受け入れ、当保全センターの業務内容等についての体験実習を行いました。

実習では、屋久島森林生態系保全センターの業務概要を始め、①森林生態系等のモニタリングと保全対策②レクリエーションの森の保全・利用③外来種対策④国有林への入林申請などの当センター業務全般のほか、貯木土場でのヤクスギ土埋木の説明、小杉谷の歴史などについても追加で実施しました。



縄文杉の保護対策を学ぶ

一週間の就業体験実習を終え、研修生からは、「森林生態系の保全と利用についての貴重な体験ができたことに加え、外来種やヤクシカ対策など屋久島が抱えている問題について、実際の体験



下層植生を学ぶ

を交えて詳しく学べて有意義な経験となった。また、業務の内容だけでなく、屋久島での文化についても教えていただきありがとうございました。」との感想をいただきました。

彼女は、以前にも近中局管内でのインターンシップの経験があり、今回のインターンシップを通じて、一般的な森林管理業務とは異なった森林生態系保全に関する業務を体験し林野庁職員の業務の幅広さを体感したとのことであり、これらの経験を活かして、近い将来、私たちの職場で活躍してくれることを期待しています。

## 2020年度 屋久島森林生態系保全センター業務計画

### 1 森林生態系保全業務

- (1) 職員と森林保護員(GSS)による世界自然遺産地域等のパトロール
- (2) 森林生態系モニタリング調査(屋久島北部地域の植生調査等、高層湿原保全対策)及び著名ヤクスギ等の樹勢診断
- (3) アブラギリ等外来種対策(駆除比較試験、行政連絡会との連携)
- (4) 気象モニタリング(雨量、気象観測及び降灰植生調査)
- (5) ヤクシカ対策(植生保護柵管理、有害鳥獣捕獲等)

### 2 普及教育及び森林空間総合利用等

- (1) 森林環境教育、「屋久島森の塾」等の実施(他機関との連携協力)
- (2) 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への指導・助言

### 3 その他

- (1) 関係機関等との連携・協力
- (2) 広報誌「洋上アルプス」及び年報の発行
- (3) 学術調査研究等に係る入林手続き
- (4) ホームページの更新及び充実
- (5) 各種資料のデータベース化(雨量観測、学術論文等)



<p><b>屋久島地杉コンテナ苗を植栽!</b></p>  <p>2019/2/18</p> <p>今回植栽した苗木は、バランスのとれた持続可能な森林づくりを目指し、「チーム屋久島」として民国連携で取り組んでいる育苗試験で発根したものです。</p>	<p><b>「洋上アルプス」最優秀賞 受賞!!</b></p>  <p>2019/5/24</p> <p>第53回林業関係広報コンクールにおいて、この「洋上アルプス」が広報誌部門「最優秀賞」を受賞しました。今後も充実した誌面作りに取り組んで参ります!</p>	<p><b>高層湿原保全対策現地検討会</b></p>  <p>2019/6/3~4</p> <p>高層湿原の現地調査結果を踏まえ、自然環境への配慮など活発な議論が交わされました。今回の検討会は、保全対策の実施に向け有意義なものとなりました。</p>
<p><b>小・中学校の教職員を対象に</b></p>  <p>2019/7/31</p> <p>町内小学校教職員対象の「屋久島森の塾」を今年度は中学校にも広げ、総勢17名参加のもと開催しました。森林環境教育の一層の推進を目的としています。</p>	<p><b>夏休み期間中の森林パトロール</b></p>  <p>2019/8/1~31</p> <p>観光客や登山客で賑わう夏。国有林内でのルール遵守・マナー向上の呼びかけや、保護林内の状況把握を目的とした森林パトロールを行いました。</p>	<p><b>インターンシップ受け入れ</b></p>  <p>2019/9/9~13</p> <p>九州大学1年の学生1名が1週間の農林水産省就業体験実習を行いました。現場の大切さに触れた今回の体験が今後活かされることを期待しています。</p>
<p><b>森林・林業の技術交流発表大会</b></p>  <p>2019/10/29~30</p> <p>熊本市で開催された「森林・林業の技術交流発表大会」で、当保全センターは「屋久島におけるグリーンサポートスタッフ(GSS)の取組」について発表しました。</p>	<p><b>杉の香薫る未来のマイホーム?</b></p>  <p>2019/11/9, 28</p> <p>屋久島町立安房中学校1年生28名の森林教室では、加工センターで製材する様子を見て「屋久島の地杉で家を建てたい!」等の嬉しい声が聞かれました。</p>	<p><b>熊毛地区植樹祭へ参加</b></p>  <p>2019/11/29</p> <p>『森がすき ずっとずっと 守りたい』をテーマに開催された植樹祭では、屋久島の森林資源の活用に向けた育苗生産の取組等について説明しました。</p>
<p><b>ヤクスギランドでボランティア活動</b></p>  <p>2019/11/30</p> <p>アサヒビール(株)鹿児島支社長をはじめ職員の方々、屋久島町長や地元関係者の総勢103名による清掃作業で気持ち良い木道になりました。お疲れ様でした!</p>	<p><b>170名への環境教育</b></p>  <p>2019/12/23</p> <p>屋久島町立中央中学校全校生徒を対象とした出前授業は、今までにない大人数で資料作成など大変苦慮しましたが、生徒の皆さんには大変喜ばれました。</p>	<p><b>森林教室 in 種子島</b></p>  <p>2020/1/11</p> <p>ヤクタネゴヨウ保全の会の依頼で実施した西之表市立榕城小学校6年生84名の森林教室は、種子島の植物の説明や木の名前当てクイズ等で盛り上がりしました。</p>

<p><b>4月1日付転入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所長 林 友和 (九州局計画保全部 専門官(災害調整担当))</li> <li>○ 生態系管理指導官 宮本 和久 (熊本南部森林管理署 森林技術指導官)</li> </ul>	<p><b>4月1日付転出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宮崎北部森林管理署 署長 黒木 興太郎 (所長)</li> <li>○ 西都児湯森林管理署 次長 奥村 克 (生態系管理指導官)</li> </ul>
--	--

# 屋久島のコマドリ（第1回）

## —— 南限の繁殖地 ——

関 伸一（国立研究開発法人 森林総合研究所 関西支所・生物多様性研究グループ）

コマドリは屋久島にも生息する、スズメと同じくらいの大きさの小鳥です（写真）。しかし、大きさ以外はスズメとはずいぶん異なります。まず、スズメのチュンチュンという地味な鳴き声とは異なって、コマドリは「ツイン、ピュリリリッ」と澄んだ声でさえずります。その美しいさえずりは谷を挟んだ遠くの斜面からでも聞き取ることができ、ウグイスやオオルリとともに日本三鳴鳥の1つとされています。ですから、コマドリがどんな鳥か知らなくても、名前だけは聞いたことのある人も多いのではないのでしょうか？



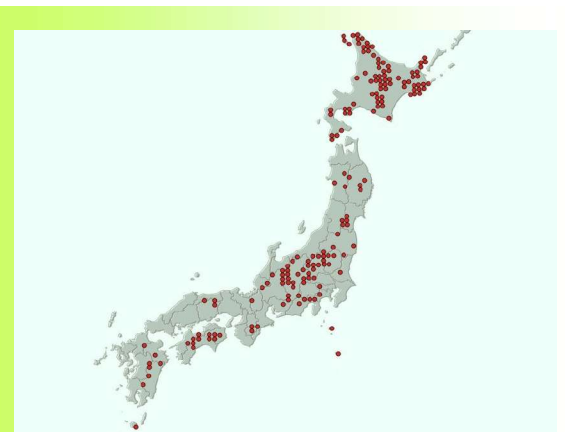
屋久島の山地の森でさえずるコマドリの雄（尾上和久氏撮影）

また、全体に茶色がかったスズメと異なり、コマドリは明るいオレンジ色の胸が特徴的です。背中や腹は赤茶色で、お腹は灰白色なのですが、森で見かけるとオレンジの胸がとても鮮やかです。もっとも、コマドリは森林下層のよく茂った藪の中にいることが多いので、姿を見るのは簡単ではありません。

さらに、スズメがユーラシア大陸の東西にまたがって広く分布するのに比べると分布も限られていて、コマドリは日本列島周辺の島にしかいません。東アジアに生息する大陸の近縁種とは数百万年以上前に分化したと推測されています。サハリンや千島列島の一部を除くと、ほぼ日本列島の固有種ということができ、英語名も Japanese Robin といいます。

そして、スズメが多く地域では基本的に一年中同じ場所にすんでいる留鳥なのと違って、コマドリは渡り鳥です。日本列島で繁殖して、冬は主に東南アジアですごします。ただ、日本の南部には越冬する個体も少数いて、屋久島では冬にも記録があります。

生息地も人里に棲むスズメとは対比的で、コマドリがすむのは主に山地の森です。広葉樹に交じる針葉樹が増え、風がひんやりと感じられるあたりまで山を登ると、ようやくコマドリの声を聞くことができます。屋久島だったら屋久杉が増えてくる 1000 m 以上の地域です。ですから、屋久島より南の高い山のない島々にはコマドリはいません。もともと分布が日本列島の周辺地域に限られる鳥ですから、屋久島が南限の繁殖地ということになります（図）。



日本列島でのコマドリの分布（環境省2004の情報をもとにQGIS3で作図）

そんな山の鳥コマドリですが、最近、各地で減少しているという報告があります。原因はニホンジカの増加で

す。シカが増えすぎて森林の下層植生を食べ尽くしてしまうと、藪の中で餌をとったり藪陰の地上に巣を作ったりすることができなくなり、コマドリも減ってしまうのです。屋久島でもシカが増え、植生への影響が出ています。私が数年前に屋久島でコマドリを調査した目的の一つもシカの影響を評価することでした。さいわい調査した時点では目立って減ってはいませんでした。今後の変化には注意する必要があるでしょう。（つづく）



